

宮川の風 第73号

平成31年1月25日（金）発行
宮川小学校校長室からのたより

先週末に宮川小学校職員での新年会がありました。ちょうどその日は、市教職員の卓球大会もあり、その打ち上げも兼ねた会という係からの案内でした。ところが、当日のメインは、私ともう1人の職員の還暦祝いだったのです。予想だにしていなかったのでびっくり仰天！赤いちゃんちゃんこをはじめ、赤いものグッズを次々といただき、感謝感激の時間となりました。当日都合で参加できなかった職員も含めて、全職員の心遣いが心に染み込みました。

さて、還暦を迎えて、ますます自分の健康には高い関心をもって過ごしたいと思っています。先輩諸氏から「あちこちガタがくるよ」という話をいただいています。好きなことが好きなようにできるために、元気・笑顔・感謝を大切にしていきたいと考えます。そのためには、自分の体を大切にしなければなりません。大切にすることというのは、楽をさせるということではなく、自分の体の機能を維持するということです。

裏面の話をお読みください。

自然の生き物の力はすばらしいものです。環境に適した進化をすることで、自分の身を守り、種の保存を成し遂げているのです。

私たち人間も、環境に耐えうる一定の力を備えているはずですが、その力を引き出し、高めていくには、ある程度の厳しい環境に身を置かなければならないと思います。暑さや寒さをシャットアウトした環境にだけいると、体の機能も働く場を失ってしまいます。

寒さは苦手な私ですが、エネルギーに頼りすぎず、適度な外出と運動を心がけ、体の内にある「環境適応力」を高めていきたいと思っています。

インフルエンザが猛威をふるっています。寒さもこれから1ヶ月が最も厳しくなります。お互いに健康に留意して、楽しい毎日を過ごしていきましょう。

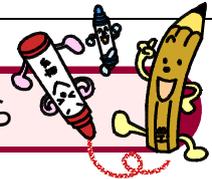
リコーダー名人

3年生の子どもたちが、音楽の授業の一環として「リコーダー名人」に挑戦しています。課題として与えられた6曲を、それぞれ3人の先生方に聴いてもらって、合格印をもらいます。

昼休み時間、「リコーダー名人で来ました。今お時間はよろしいでしょうか」と言って校長室に入ってきます。いつもと違う場所での演奏に緊張の度合いも高まるようですが、みんな懸命に演奏してくれます。そういえば、自分が小学生の頃、たて笛（当時はそんな名称でした）のテストがあれば、みんなの前での演奏に緊張し、指がふるえる思いをしたことを思い出します。

がんばれ！リコーダー名人(^^)！

ある日のできごとから



あいさつの距離感を感じます。それは、朝一番の場面です。私が正門に立っている横を通る子どもたちは、全員上手なあいさつをしますが、少し距離のある場面ではあいさつが飛んできません。例えば、校舎が開錠する前に玄関前で待つ子どもたち。その横を正門に向かって歩く私が子どもたちに「おはよう」と言っても、子どもたちからのあいさつが返ってこないのです。見えてはいるけど、気付かない。そんなことなのでしょう。校庭を歩いている子どもたちにも言えることです。

ところが、最近、距離があるところからあいさつを飛ばしてくれる子どもが出てきました。その日は3年生の女の子でした。20mほど離れている私に体を向けて「おはようございます」と元気な声であいさつしてくれました。あいさつの距離が縮まることが嬉しく感じられます。

22日の朝は、2年生による音楽発表がありました。宮川小の一日を歌や演奏で表現してくれました。最後の歌では、一日の終わりには感謝の気持ちを持つことが大切だと伝えてくれました。私も、就寝前にはその日お世話になった多くの方々に対して、感謝の気持ちを思い起こすことにしたいと思います。

発表の様子は、学校のホームページにアップしてありますので、ぜひご覧ください。

終了後、担当職員から「たった1回の発表に全力を尽くすことの大切さ」が伝えられていました。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）